



プラカードを掲げるかごしまの下本地理士長（左から2人目）

継続することが 社会を変える力になる

グリーンコープ生協ふくおか 理事長 三原 幸子さん
(前中部地域理事長)

昨年12月に福島へ視察に行き、原発事故で不自由な生活や苦しい選択をされた被災者の話を聞いて衝撃を受けました。今回の集会では被曝で苦しんでいる人たちの声がとても悲痛でした。デモ行進をしても、周辺の人々の関心は薄く、マスコミの報道もないことがとても残念に思いました。社会は原発事故を忘れ、まるでなかったかのように捉えていると思いました。私は、小さくても声を上げていかないと社会は変わらないと思っています。この集会もその一つだと考え継続していかねばと思いました。

一人でも多くの声で 脱原発をすすめよう

グリーンコープかごしま生協 理事長 下本地 紀子さん

この集会に最初に参加した5年前は、東日本大震災から間もないころで、悲壮感で埋め尽くされた重い取り組みだったことを思い出します。鹿児島にある川内原発は再び動き出してしまいました。私の周りでは、原発にあまりに近すぎて、反対の声を上げにくいと感じている人も多くいます。2回目となる今回は、そのような難しい立場の人の思いも含めて、取り組みを途絶えさせないようにしよう、一人でも声を出そうと集会に参加しました。今後も同じ思いの仲間と共に力強く訴えていきたいと思っています。

子を思う母親の力で 原発を止めたい

グリーンコープ生協ふくおか 南地域理事長 松本 裕子さん

組合員になって20年、脱原発への署名活動などにも取り組んできましたが原発を止められず、もどかしさでいっぱいです。原発は安全でクリーンなエネルギーだと思っていた人の中には、事故後にその考えが覆った人もいます。福島から福岡に避難している人の話を聞く機会もありました。逃げて来たと思われ、いじめにあうなど、二重三重もつらい思いをされていることに憤りを感じました。自分も子を思う一人の母親として、一人でも多くの人に脱原発を訴えていきたいと思っています。

2017年3月20日、東京の代々木公園野外ステージで、「さようなら原発」一千万署名 市民の会主催の「いのちを守れ！フクシマを忘れない さようなら原発全国集会」が開催され、全国から脱原発を訴える団体・個人約11,000人が集まりました。

グリーンコープは、原発のない社会をめざす運動を全国の仲間とともにすすめています。社会へ向けて脱原発を大きくアピールすることを目的にした今回の集会にも、12人の組合員が参加しました。

集会のようすを報告します。



横断幕を持つ左からふくおかの三原理事長・松本南地域理事長

◀大勢の人がステージでの報告に耳を傾けた



被曝に苦しむ人々からの 切実な訴え

被曝から子どもを守る「3a(安心・安全・アクション)の野口時子さんは、親子で参加して次のように報告した。「原発事故後、子どもたちの就学を優先し、福島で生活することを選択しました。子どもたちは、できるだけ被曝しないように注意深く生活すること、保養に行くこと、高校

晴天となったこの日、午前中から代々木公園のステージをめざして全国から脱原発運動をすすめる参加者が続々と集まってきた。会場周辺は、各団体の幟や出店ブースで埋め尽くされ、チラシ配りや署名を呼び掛ける声で活気づいていた。

集会の冒頭、呼びかけ人の一人である作家の落合恵子さんが「国は、原発事故被害者の補償金と住宅の無償提供を打ち切り、住み慣れた故郷だけでなく人々の生きようとする権利さえも奪おうとしています。苦しむために生きるいのちは一つもないのです。不平等な社会を子や孫に残してしません」と力強く訴えた。

被曝に苦しむ人々からの切実な訴え。被曝から子どもを守る「3a(仮名)は、「原発事故を何とかしたい」との思いで、家族の反対を押しきって現場作業へ向かいまわった。現場は、鳴り響く警告音を無視しての作業続行指示や鉛ベストの不足等、さまざまな管理の下、劣悪な労働環境でした。命がけで作業していた原発労働者を危険にさらし、使い捨てにした東電の無責任さには怒りしかありません。多くの被曝労働者のためにも声をあげていき

は県外を受験することを約束しました。事故から6年、放射線量は下がりましたが、低線量被曝が心配です。放射性物質の影響は長期に亘るため、闘いはまだまだ続きます。子どもが大人になるまで、親になるまで、毎日恐怖を抱えながら生きることができません。どうか私たちが忘れないでください」。

デモ行進で 脱原発をアピール

集会後は二つのルートに分かれデモ行進を行った。グリーンコープの組合員は渋谷駅前を周る1.3kmを脱原発をアピールする横断幕やプラカードをもっと知ってほしい、原発事故を忘れないでほしいと沿道の人々にも訴えた。

ます」と声を震わせ訴えた。



No.105

グリーンコープの放射能検査について

グリーンコープは、1986年のチェルノブイリ原子力発電所事故直後より、食品の残留放射能検査を行ってきました。東日本大震災にともなう重大な原発事故がおり、2011年10月、組合員へ届ける食べものの安心・安全をさらに確かなものとするために、独自に放射能測定室を設置し、検査をはじめました。目に見えない放射能汚染への不安に応え、現状を組合員と共有するために、検査結果のすべてを機関紙「共生の時代」やホームページで公開しています。

東日本大震災後、国は一般食品の基準を100ベクレル/kgに変更しましたが、グリーンコープでは、取り扱っている食べものの自主基準を震災前と変わらず10ベクレル/kgとし、それ以上の数値が検出された時は共同体理事会で取り扱いを検討しています。

かけがえのない「いのち」を守るために、できる限りのことを行い、子どもたちの未来を守りたいと考えているのです。

グリーンコープ共同体組織委員会

一般社団法人グリーン・市民電力から
ひろがれ! 私たちの発電所

グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,613人 1,062,853,000円
(2017年4月8日現在)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2017年2月の 売電量

神在太陽光発電所 売電量 91,640kWh 定格出力1.057kW(280世帯相当)	平池水上太陽光発電所 売電量 106,054kWh 定格出力1.260kW(380世帯相当)
--	---

若宮物流センター
太陽光発電所売電量
3,742kWh
定格出力47kW(13世帯相当)

広島物流センター
太陽光発電所売電量
4,136kWh
定格出力47kW(13世帯相当)

グリーンコープやまぐち生協
西部地域本部太陽光発電所売電量
3,164kWh
定格出力54kW(15世帯相当)